

# BOOK TRAIN



## 『極北の犬トヨン』

ニコライ・カラシニコフ/作  
 アーサー・マロクヴィア/絵  
 たかすぎ いちろう やく  
 高杉 一郎/訳  
 とくましよてん  
 徳間書店

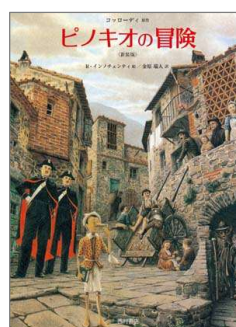
うん わる うで よ りょうし えん こいぬ  
 運は悪いが腕は良い猟師のグラン。縁あって子犬  
 のトヨンを引き取ったときから、暮らしがどんどん良  
 くなっていく。極北の厳しい自然の中では、人も犬も  
 いのち くべつ ひつよう しぜん なか ひと いぬ  
 命に区別はない。どちらも必要にしたがって自然が  
 うみだ せいめい かたち  
 生み出した生命の形だ。グランとトヨンは、それぞれ  
 の知恵を分かち合い、かけがえのない相棒となる。  
 ち え わ かち あい かけがえのない相棒となる。  
 だがある日、恐ろしい試練が訪れる。



## 『やらかした時に どうするか』

はたわら よう たろう ちよ  
 畑村 洋太郎/著  
 ちくましよぼう  
 筑摩書房

しっぱい かぜ あ つよ げんたい しっぱいがく けんきゆう  
 失敗への風当たりが強い現代に、「失敗学」を研究  
 する著者。失敗の分析法や「思いつきノート」などのア  
 イドアを紹介し、創造の種を生む考え方を分かり  
 やすく説明する。そして世界で活躍する若者達も例に  
 あげ、失敗体験から得た知識を活かし、自分の頭で  
 考え、挑戦し続けることが大切だと語る。勇気を持っ  
 て失敗し、クリエイティブな生き方を見つけてみよう！



## 『ピノキオの冒険』

カルロ・コッローディ/原作  
 ロベルト・インノチェンティ/絵  
 かねはら みずひと やく  
 金原 瑞人/訳  
 にしむらしよてん  
 西村書店

みな し ぼうけん  
 皆さんもよく知っている「ピノキオの冒険」は1881  
 年にイタリアの子ども新聞に連載された。翌年英訳  
 版が出版されると、瞬間に世界中の子どもたち  
 に大人気となった。国際アンデルセン賞を受賞した  
 画家、インノチェンティが描いたイタリアの町の風景  
 も魅力的。画集のような本なので、眺めるだけでも  
 楽しい。ひと味違うピノキオのお話。



# 『荒野にヒバリをさがして』

アンソニー・マゴーン/作  
野口 絵美/訳  
徳間書店

ケニーとニッキーの兄弟は、愛犬のティナを連れ、ヒバリを探しにハイキングに出かける。ところが、季節外れの大雪のせいで道を見失ってしまった。二人は困難な状況に置かれながらも、冗談を飛ばし、笑いあい、兄の語る話を聞きながら道を探していく。家や学校で辛いことがあった時、そうしていたように……。兄弟、そして家族の固い絆を描いた物語。

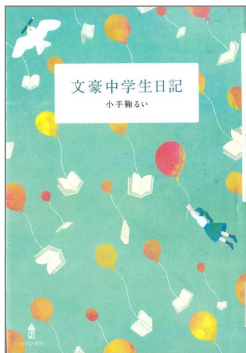
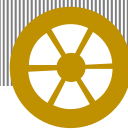


# 『クリシュナのつるぎ』

インドのおかしな話

秋野 癸巨矢/文  
秋野 不矩/絵  
BL出版

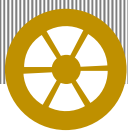
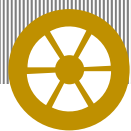
「神さま、どうぞおたすけてください」。乱暴を働くカンサ王に苦しめられた人びとは、ヴィシュヌ神に救いを求める。毎日ささげられる祈りにヴィシュヌ神は応えるが、それはカンサ王の知るところとなり……。インドの人びとから最も愛されるクリシュナ神の、誕生と成長の物語。美しい文章と色鮮やかな絵で紡がれた、魅力的な神話絵本である。



# 『文豪中学生日記』

小手鞠 るい/著  
あすなろ書房

春希は、三度のごはんより書くことが大好きな中学2年生の女の子。作家になる夢を持ち、紀貫之にならない異性になりきって、日記を書き続けることを決意する。自身の心情を綴る中で、詩の面白さに目覚めていく春希。だがSNSへの詩の投稿が元で友人に疑いを持ち始め、人間不信にも陥り……。思春期のゆれ動く心のありようを等身大に描いた作品。



# 『世界一くさい食べ物』

なぜ食べられないような食べ物があるのか？

小泉 武夫/著  
筑摩書房

世界には、臭いをかいだだけで気絶してしまうような、くさい食べものがたくさんある。なぜ人は、くさい食べものを好んで食べるのか？「味覚人飛行物体」を自認する農学博士の小泉武夫氏が、現地での実体験をもとに栄養学的観点から解き明かす。読み終わるころには、くさい食べものを食べてみたいかもたらなくなっているかもしれない。

